

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設内の、職員の目につく場所に理念の文書を掲示して、ご利用者が理念に基づいて生活できるよう努力をしている。また、毎月の職員会議で理念を読み、職員内で共有している。	会議の資料には、理念を記載して読み合いながら確認しています。日々のケアで実践しているかどうかを職員同士で確認し合い、更に立ち戻る事ができるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の図書館の方に読み聞かせに来ていただいたり、歌や演奏のボランティアに来ていただいたりして交流をしている。	積極的にご近所や消防団員に声かけ等の挨拶を行っています。ご近所からの野菜・果物などのお裾分けがあり、「又、来るね!」「いつでもどうぞ!」の関係を持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々の理解等が、現在は具体的に活かせていないが、今後は困りごとなどの相談に関わり、地域に貢献できる施設にしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	現状報告をして意見をうかがっている。職員、ご家族にも会議の内容を共有している。ご家族や地域の方、ご利用者にも参加していただき、サービス向上に向け努力している。	外部評価受審の報告を行い、地域における住民の活動など、委員から意見等をいただき、これを職員会にて話し合い、より良い地域との関わりを持つことができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故報告など何かあった場合には、飯田市へ書類を提出して情報共有している。認定調査などの場合にはケアマネージャーか管理者が対応している。	市の運営指導を受け、解らない事は担当者から詳細に指導を受けました。事業所からは、制度が変わった時など理解できるまで市の担当者に聞く等、種々積極的に関わりを持っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止についての研修を行っている。施設の前の道路は車通りが激しく危険で、徘徊で外出してしまうご利用者がいるため施錠している。現在身体拘束をしているご利用者がいるが、ご家族への説明、同意、職員の記録等をしている。	事業所及び利用者のリスクを全職員は把握しています。転倒リスクのある利用者が立ち上がった時「どうしたの?」でなく「一緒に歩きましょう」と対応するなど、拘束をしないケアを話し合い、運営推進会議においても話し合いを行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修会を実施し、委員会があることを共有しているので、虐待などがあれば報告してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用し始めたご利用者がいるので、今後研修など実施したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所前の見学などの段階から、施設での生活の様子やターミナルケア、退所時について説明をし、ご家族が納得してから入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者、ご家族からの意見や要望にできる限り応えられるよう努めている。こころ通信に写真を載せたり、イベントなどの報告をもらう事で様子がわかるようにしている。ご家族来所の際に、施設での様子を直接報告している。	「買物に行きたい・家に帰りたい」など日頃から利用者の声を聴くように努めています。出された意見等は、記録して職員会で共有しています。家族等には来所されたときに、積極的に要望や思いなど聞くように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回職員会を行って、職員の意見や希望を聞く場を設ける。意見交換をし、より良い介護ができる様になっている。	職員会において、思いや意見等を聞き、意見を交わし、情報を共有し、できるところから運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見は、真摯にとらえ働きやすい職場作りに努めている。加算などで分配している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員会議や日々の介護の中でお互いに高めあう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ前は、グループホーム連絡会があり交流していたが、現在はなくなってしまい残念だ。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	生活歴を確認し、家族からの情報も参考にしながら、本人との会話を重視する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族との会話を第一とし、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設の有り様を伝え、確実な理解をいただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の生活歴などを参考にし、生活者として関係性を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の思いに耳を傾けながら、本人・ご家族・職員が思いを共有して、連携を取りながら良い関係作りができる様に支援していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご親戚・お友達などの関係を大切にしてください。馴染みの方々が来所された時は、自室でゆっくり話ができる様にしています。	仲間の集いに誘いがあり参加する、家族と一緒に墓参りに出かける、散歩していると声をかけて咲いている花を摘んでくれるなど、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの存在を大切に、皆が参加できる行事などを提供しながら、お互いを理解し支えあえる関係性を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人・ご家族とは馴染みの関係になるので、その後の経過も含めて相談や支援について関わりを持っていく。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を聞き、ご家族へ報告して話し合いを行い、ご本人の意向を大事に支援をしている。	利用者の言動や表情など、日々の関わりから意向の把握に努めています。これらを共有ノートに記載して、どのように実践に活かしていくか話し合いに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に、ご本人の生活歴、既往歴等を把握している。ご家族や担当ケアマネージャーより状況聞き、計画書を作成して職員内で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの心身状態、有する能力など現状を把握し、その人らしい生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書は、職員や必要な関係者との話し合いで作成。モニタリングは職員会議で全員に諮り、ケアマネージャーが記載している。	介護計画に基づき、ミーティング等にて日々のケアを振り返り、モニタリングや評価を行って共有しています。本人の意向や家族等の思いを含め、現状に即した介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケア内容は、その日の職員が記録している。気づき等に関しては共有ノートへ記載し、特に気になる内容については毎月の職員会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の身体的精神的なニーズに対応し、支援を行うよう努めている。ご利用者がその方らしく生活していけるよう、柔軟なサービスや支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源として地元の図書館から読み聞かせに来てもらっている。その際、本の貸し出しもあるので借りて読み、楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は本人とご家族等の希望を大切に、連携をこまめに取りながら適切な医療が受けられるよう支援をしている。ほとんどの方が往診を利用。歯科は必要に応じて、往診で対応している。	ほとんどの利用者は往診を受けており、通院は家族対応で行い、日常の様子を共有ノートに記載し、主治医に渡して診療してもらっています。治療内容を家族からいただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日常の気づきを共有ノートに記載、または看護師へ報告している。主治医と連携し、適切な往診や看護が受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーが窓口となり、入退院時の医療連携をしている。退院前にはケアマネージャーが担当者会議に出席して、退院後についての話し合いをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事前に終末期のあり方について、ご本人やご家族に確認している。その都度、状況報告やご家族との話し合いの機会を持ち、主治医や地域関係者との関わりを密に取るよう心がけている。	事業所での対応を、入所時に説明していません。重度化や看取りケアが必要となった時は、意志確認書を説明し、家族等・医療関係者と連携をもちながら、その人らしさを大切にした支援に取り組んでいます。今後は、「重度化・看取りの指針」を入所時に説明して確認を行う予定です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡名簿を作成し、ケアマネージャー・管理者に指示を仰いで対応している。初期対応については、毎月の職員会議で確認し、緊急時マニュアルを設置している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	令和8年1月に消防署職員に来てもらい、消防訓練を実施。施設で被災した際には同法人内、隣の施設へ避難。地域との協力体制は今後、地元の消防団、隣の会社等へ協力依頼をする予定でいる。	消防署の指導により訓練を実施しています。初期対応マニュアルや家族等の連絡体制・地域の消防団や隣近所への協力体制も築いています。非常用発電機や食料等の備蓄も整えてあります。	「訓練を実施していた。それが活かされた。」という体験がありますので、夜間想定訓練を実施されることを望みます。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として敬意を持って接するよう心がけている。	一人ひとりの性格や価値観を職員同士で共有しています。「待っていて」でなく、ほかの言葉に変えるなど、日常生活の中で一緒に喜べるやり取りに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	複数の選択肢を作り、ご本人に選んでいただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できる限り、その方のペースで過ごせるように、無理のない生活環境を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身の服をおしゃれに着こなしている方がおり、季節に応じた配慮をしつつ、ご本人がおしゃれを楽しめる様にしている。3月には福祉ネイルの方に試験的に来ていただく予定でいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の野菜を畑からとってきて使ったり、季節の食の手仕事を一緒に行うことで、作る過程も楽しんでいただけるように努めている。準備や片付けができる方には、一緒に行ってもらっている。	事業所の庭の畑で取れた野菜を職員と一緒に調理したり、漬物や干し柿作りなど季節の味が食卓に満載です。誕生日は、その人の好物の食事です。台所からは美味しそうな匂いがしてきてお食事の時間です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご利用者各々に応じた食事形態にしている。メニューを記録し栄養バランスを考えて作り、おいしく食べていただけるよう努めている。水分摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後に口腔ケアを実施している。必要に応じて歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	便秘になる人も多い為、下剤の調節で様子を見たり、浣腸や座薬の指示のある人は処置を行っている。	排泄チェック表にそって適宜誘導したり、トイレに行ける方は見守っています。職員会にて一人ひとりについて検討し、個別の排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事やお茶の時間に、果物や水分補給を重視している。また、体操などを行ったり記録をつけたりして、排便の様子を観察している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ご本人の体調と気分を見ながら、清潔維持に努めている。	湯加減が温め・熱め好きな利用者・ゆっくりと入浴したい利用者・好みのシャンプーを使っている利用者がいます。職員側からの都合はなく、利用者の意向に沿って入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その人の生活に合った環境を整えて、安心して休息できる場所の提供を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	准看護師がいるので、医師の指示に従って薬の管理や、副作用について他の職員と共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌や塗り絵、折り紙など、ご本人の好きなことを自由にしていただけるよう支援している。お彼岸やクリスマス会、餅つきなどのイベントを開催するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望者については職員が付き添って散歩をしたり、同法人内の隣の施設へ出かけてお茶を飲んだりできるよう支援している。	天気がいいから外へ行きたい、隣の施設に行きお茶と一緒に戴く、寒い時は玄関先でひなたぼっこをするなどして過ごしています。歩行困難な利用者は、車いすで散歩を楽しんでいます。時には家族等と一緒に出かけさせています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は、お金の管理はこちらでしておらず、欲しい物があつた際にはご本人と共に歩いて買い物に行き、立て替え払いにて精算をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけてくるご家族には電話を替わって話せるようにしたり、手紙を出してほしいと頼まれた際にはそのようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り、季節を感じられる装飾品や花を飾っている。ご利用者の製作品や塗り絵などを飾っている。温度や明るさにも気を配っている。	ベランダでは、利用者同士が椅子に座ったり、洗濯物を干したり、畑の野菜や花を見たり、行きかう車の流れが眺められます。廊下には、季節の花やお雛様が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居者同士が話をしやすいような席の配置にするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅ですべて使っていたタンスやお気に入りのぬいぐるみ、ご家族の写真などを持ち込んでいただき、できるだけ、ご自宅に近い形で居心地良く過ごしていただけるような空間づくりをしている。	愛犬のぬいぐるみや鏡台・テレビなどを設置し、洋服掛けには気に入った洋服が掛けてあります。居室は、利用者と一緒に毎日掃除をしたり、布団を干すなど居心地よく過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者ができることの現状を、職員が理解して職員間で共有し、サポートしながら安全に生活を送れるよう努めている。		